

くすの木通信

三高だより第203号

「よいお年を」

進路課 吉澤 静恵

よいお年を。初めてこの言葉を年賀状で見たのは十年ほど前だったでしょうか。当時勤務していた学校の生徒がくれた年賀状です。年明けに『よいお年を』のあとってどう続くの?』と聞くと、彼女は一瞬きょとんとしましたが、すぐに笑顔で「よいお年を『お過ごしください』ですよね?そのぐらい私もわかりますよ!」と得意げに答えました。「一般的にはお正月じゃなくて年末に言うと思うよ。よいお年を『お迎えください』って。」と伝えながらも、私は妙に新鮮で楽しい気持ちになりました。その後も、若い方からいただく年賀状で「よいお年を」に出会うたび、言葉はこうやって変化していくのだなと嘯みしめています。年明けの「よいお年をお過ごしください」が慣例となる日も近いかもしれません。同じような毎日を過ごしているつもりでも何かがゆっくりと変化している。私たちは大きな歴史の流れの中で生きているのだなと実感します。

その歴史の流れ、社会の変化は近年急激に加速しています。特にデジタル・情報分野の発展は目覚ましく、大学でもデータサイエンスや生成AIを扱う学部・学科の新設や定員増加が続いています。そうした技術が発達するにつれ、学力とともに、情報や知識をもとに他者と協働して新たな価値を築いていく力が必要とされるようになりました。大学入試も変革の時を迎えています。年内入試とよばれる総合型選抜や学校推薦型選抜が拡大していますが、これらの入試で最も求められるのは明確な志望動機です。

一方で、「やりたいことはないけれど推薦で合格したい」と考える人が増えています。今年、総合型選抜や学校推薦型選抜に挑戦した3年生は、自分に関心を持ち、自分が住んでいる町を知り、今社会で起こっていることと自分はどうか関わっているのかを考え続けた人たちです。2年生は具体的な進路先を聞かれることが増える時期です。1年生は文理選択が控えています。みなさんのゴールは内定や合格をもらうことではありません。どのような人になりたいか、どのように社会と関わっていききたいか、自分の仕事や役割で誰を幸せにしたいかをじっくり考えたうえで進路を選択してください。

年末年始は家族や親戚で集まる機会も多いと思います。身近な人生の先輩が高校時代、何に悩んでいたのか、どのように進路を決めたのかなど、じっくりとお話してもらってください。そして今年一年を振り返ってみてください。キャリアパスポートに記録するのもお勧めです。嬉しい気づきや、心の変化があることを願っています。入試を控えている3年生のみなさんは、焦らず驕らず、目の前のことに集中していきましょう。すっきりとした新たな気持ちで2024年のスタートを迎えられますように。よいお年を。